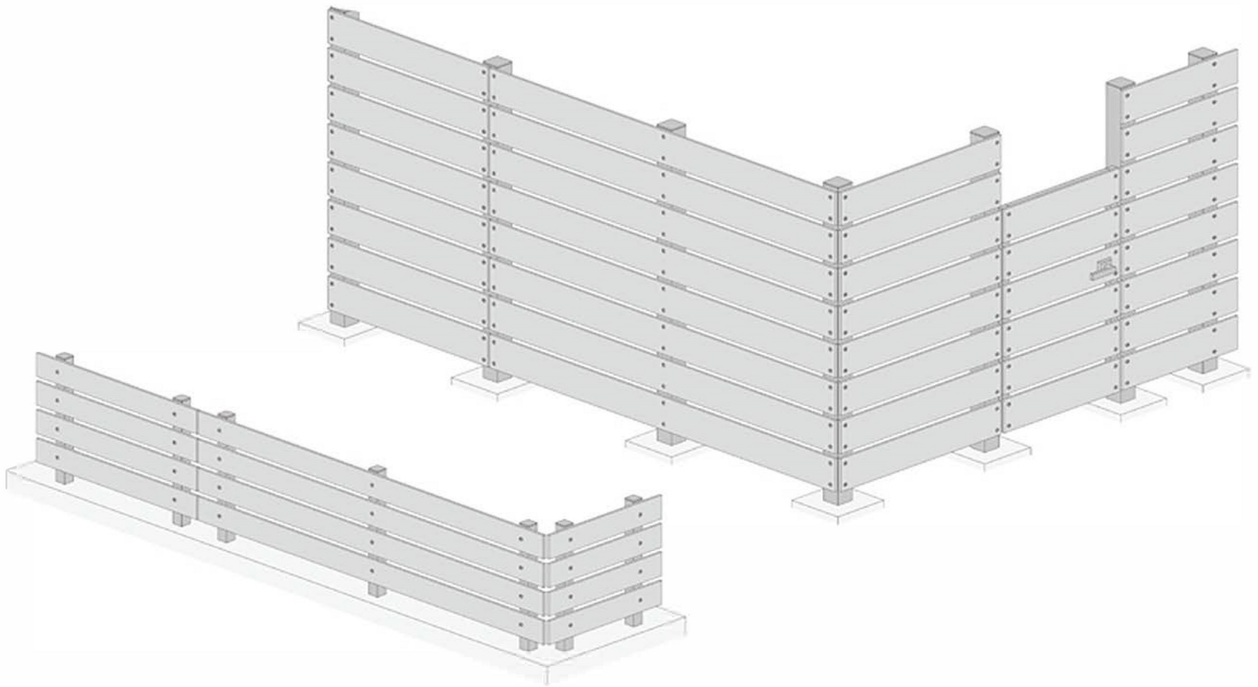
極厚木目調樹脂フェンス施工説明書

極厚樹脂フェンスと共通の施工説明書になります。

商品・施工に関するお問合せ

TEL 059-340-4100
FAX 059-353-1439



東京ガーデニングスタイル
TOKYO GARDENING STYLE

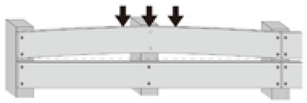
①施工・使用上のご注意

商品お受取時のお願い

●商品の発送は細心の注意を心掛けておりますが、作業遅れなどのトラブルを未然に防ぐためにお受取の際は届いた商品内容を一度ご確認頂き、万が一不足や破損等がございましたら至急ご連絡をお願い致します。

施工上のご注意

●天災などの不可抗力や、不当な修理・改造による故障・破損に対する補償等は致しかねます。
●台風や突風などで事故がないよう、施工場所には十分ご注意ください。
●各パネルとも比較的薄い部材のため、立て掛けたり平らでない場所や日差しの強い場所に保管しないでください。
●各パネルとも素材の特性上、多少の反りや曲がりがある場合がありますが、製品上の問題はありませんので、右図のようにパネルを矯正しながら固定してください。



●ブロック上に施工する場合は、ブロック強度を十分に考慮し、ブロック高さを含めてH2,000を超える場合は、控え柱等の補強を設けるなどしてください。
●ブロック上に施工する場合は、ブロック強度や高さを考慮し必要強度を保つ範囲内で、埋込みを必要長さにカットしてください。
●ブロック上に施工する場合は、凍結破損を防ぐため必ず4mm以上の水抜き穴をあけ、ふさがないように柱を埋め込んでください。
●ブロック上やコンクリート上に施工する場合は、照り返し熱によりパネルに変形の恐れがあるため、下地との隙間は70mm程度あけてください。
●各パネルとも右記のような熱による伸縮があるため、躯体や障害物がある場合は隙間を十分取ってください。

スタイルフェンスシャビー板材
表面温度40℃変化 ⇒ 1mあたり約3mm伸縮

●各パネルとも樹脂が含まれるため、日中や日差しが強い時など高温になりますので、施工時および使用時は保護具を使用してください。
●各パネルともペンキや接着剤の使用、釘での固定は避け、ドリルビスで固定してください。
●長いスパン（10m程度）の場合は、より確実で安全な施工をして頂くために柱上部にアルミ背面補強材を固定し、柱の振れ止めを行ってください。また日差しの強い場所や強風が当たる場所では、短いスパンでもなるべくアルミ背面補強材を設けてください。

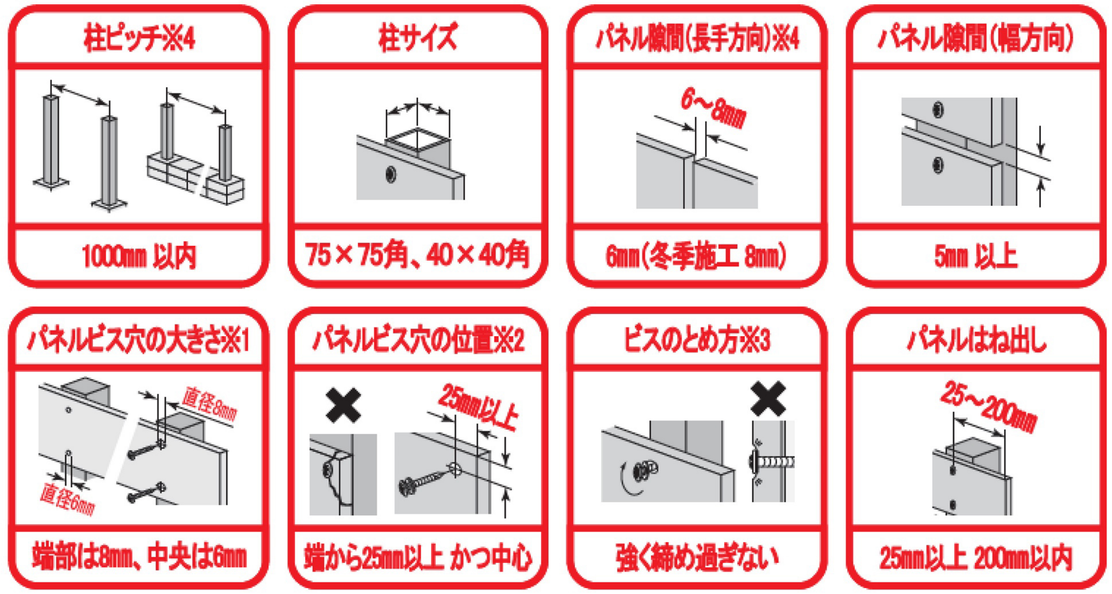
使用上のご注意

●各パネルとも樹脂が含まれるため日中や日差しが強い時など高温になりますので、日中直接手を触れる際は十分注意してください。
●各パネルとも熱による変形が生じやすい材料の為、熱を発生するものや高温となる場所、近くでの火気のご使用はお避けください。
●人工木柱および人工木板は、水気や湿気の多い場所に長時間放置するとカビ等の原因となりますので、こまめなメンテナンスをおすすめします。
●人工木材は、経年変化により発生した成分が直接あるいは雨水などと混じり衣類等に付く場合がありますので、衣類・布団・洗濯物などが直接触れないようにしてください。
●フェンスに登ったり、ぶら下がったり、寄りかかったりなどの過度な負荷、柱やパネルへの強い衝撃、重量物の積載などは倒壊や破損の原因となりますので絶対にしないでください。

お手入れ方法

●人工木板や人工木柱の表面に傷が付いた場合は、サンドペーパー(#60)やヤスリ等で擦ると目立たなくなります。その際は、必ず長手方向の目に沿ってこすってください。
●軽量樹脂材の表面に傷が付いた場合は、ペーパー(#80)やメラミンスポンジで長手方向に軽く擦り、布等で拭き取ると目立たなくなります。

②最重要寸法 必ず以下の内容をお守りください

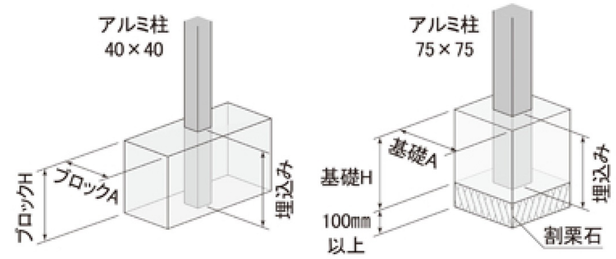


※1 間柱の位置を中央としてパネル伸縮に対応する為、中央は6mm、端部は8mmのビス穴をあけてください。
※2 ビス穴がパネル端部に寄り過ぎると板割れの恐れがあります。
※3 インパクトドライバーを使用する際は、パネル伸縮を妨げないようビスが喰い込まない程度にしてください。
※4 パネルの隙間が少ない場合や柱ピッチが広い場合、パネルの曲りや変形の恐れがあります。

■参考基礎寸法

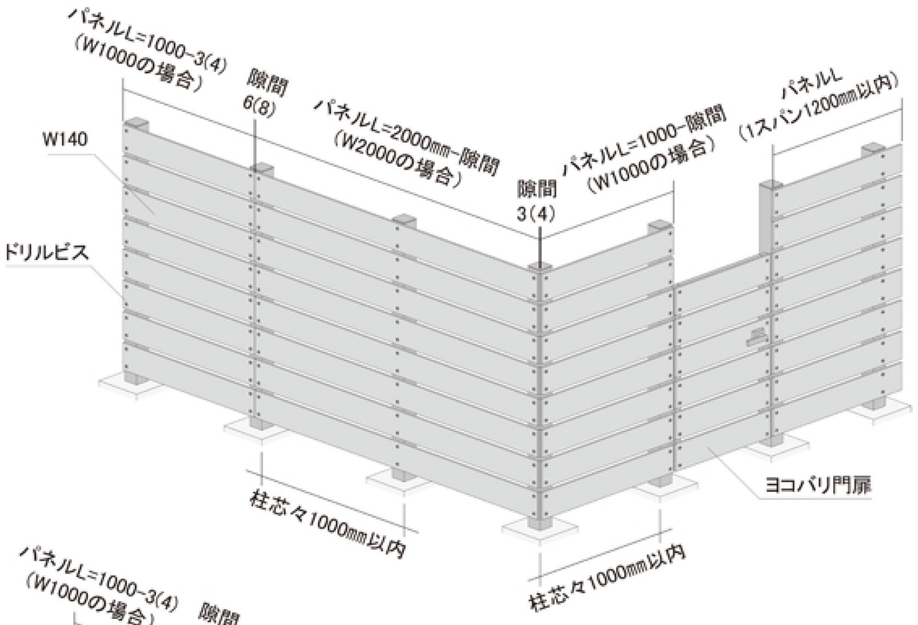
フェンスH（mm）	柱サイズ	埋込み（mm）	H寸法（mm）	A寸法（mm）
～1300	40×40	200	200	150
～2000	75×75	500	600	300

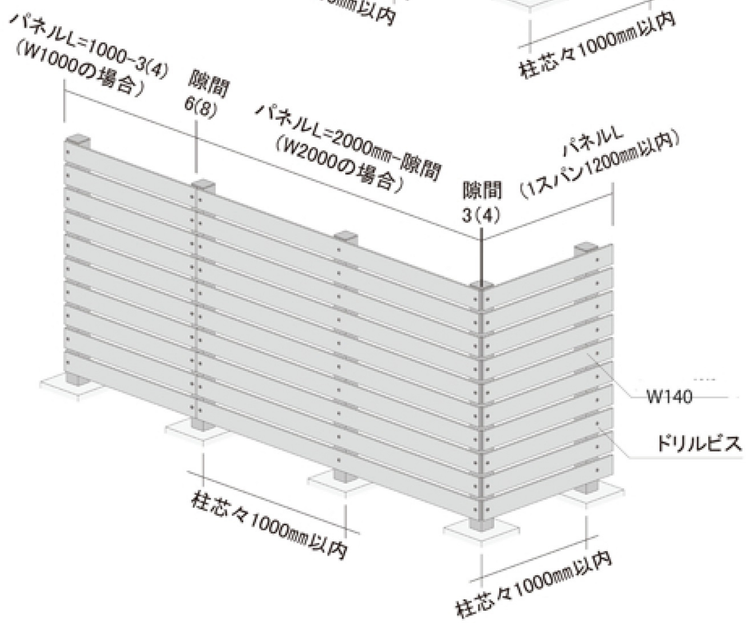
※基礎寸法は参考ですので、フェンスタイプや地盤状況、風当り等の現場によって異なる場合があります。状況に応じてご判断ください。



④各部名称と基本寸法（アルミ柱75×75）

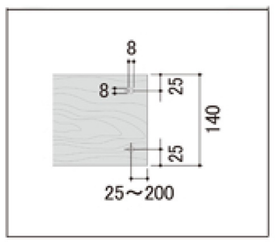
■各部名称と基本寸法





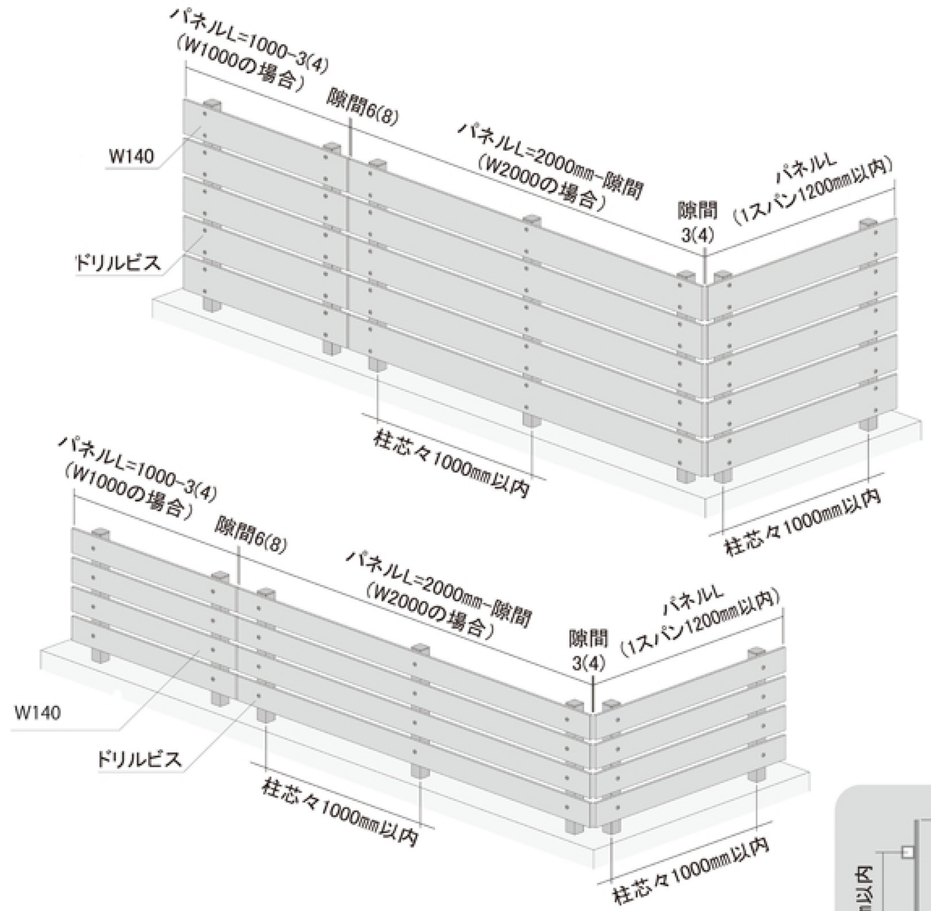
※()寸法は冬季施工時の場合となります。

■詳細部寸法



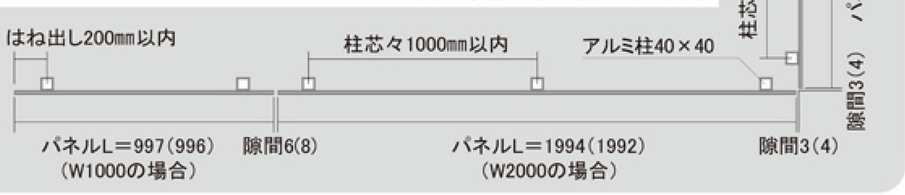
⑤各部名称と基本寸法（アルミ柱40×40）

■各部名称と基本寸法

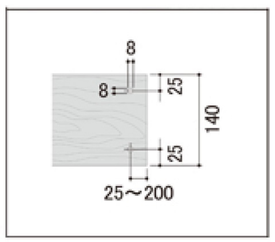


※()寸法は冬季施工時の場合となります。

（基本寸法例）

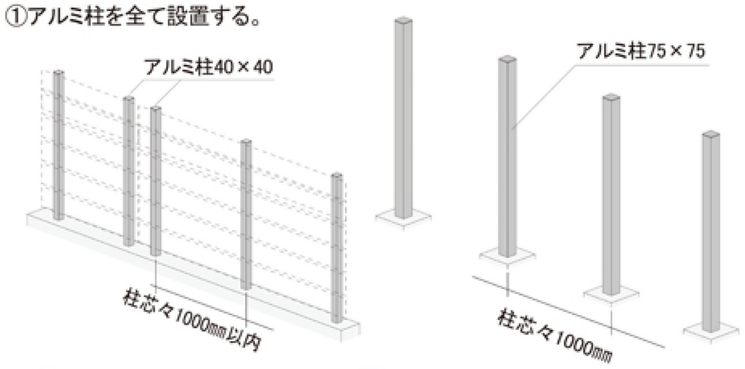


■詳細部寸法



⑥設置順序

①アルミ柱を全て設置する。

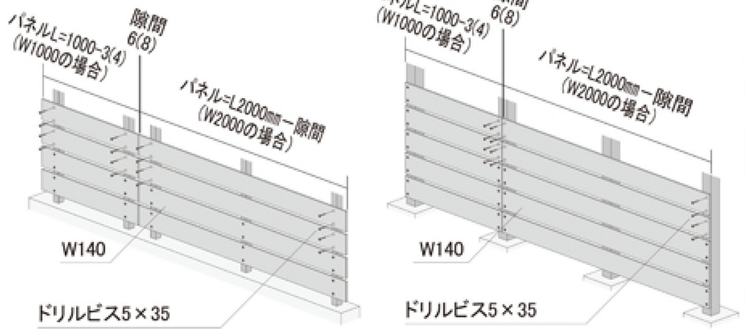


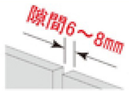
注 意
※アルミ柱40×40の場合は、パネルの継ぎ目は必ず2本柱としてください。

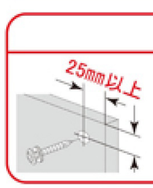
注 意
※柱ピッチは芯々1000㎜以内とし、現場状況に応じて控え柱等の補強を施してください。

注 意
※柱は垂直に、かつ間隔は正確に設置してください。

②パネルをカットし、ビス穴をあけ両端部を固定する。



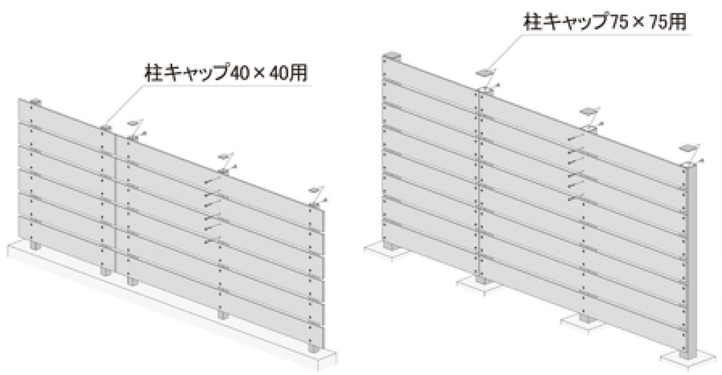
注 意
※パネル継ぎ目は必ず隙間をあけてください。
（夏季6㎜、冬季8㎜）


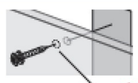
注 意


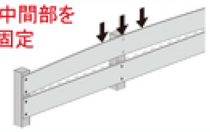
※端部ビス穴は必ず直径8㎜、端から25㎜以上で中心で固定してください。

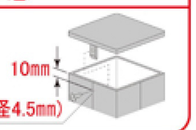
注 意
※伸縮に対応するためビスは締め過ぎないようにしてください。

③パネルを中間部(間柱)で固定し、キャップを取付ける。



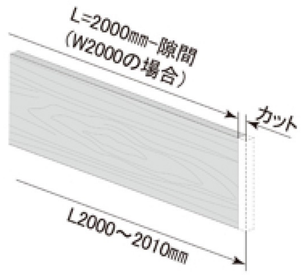
注 意

※パネル中央部(間柱)は丸穴(直径6㎜)をあけて固定してください。
丸穴(直径6㎜)

注 意
※パネルに曲がりがある場合、両端を固定した後に中間部を矯正しながら固定してください。


注 意
※キャップは必ず柱にビス固定してください。


⑦パネルの加工

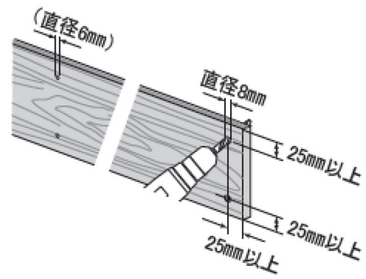
②-1 隙間を考慮してパネルをカットする。



注 意
※パネル継ぎ目は必ず隙間をあけてください。
（夏季6㎜、冬季8㎜）

②-2 パネルにビス穴(端部は直径8㎜、間柱がある場合は直径6㎜)をあける。

・治具を使用しない場合
⇒ P3もしくはP4(詳細部寸法)をご参照ください。

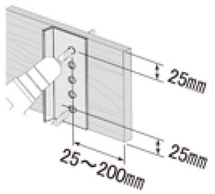


注 意
※パネル端部のビス穴は必ず直径8㎜であけてください。

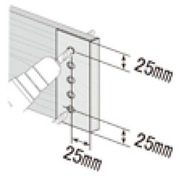
・治具を使用する場合 ⇒ 下記方法にてご使用ください。

□アルミ柱40×40の場合

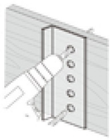
パネル幅方向を揃え、
治具外側の穴を2ヶ所使用。



□アルミ柱75×75の場合
（パネル端部）

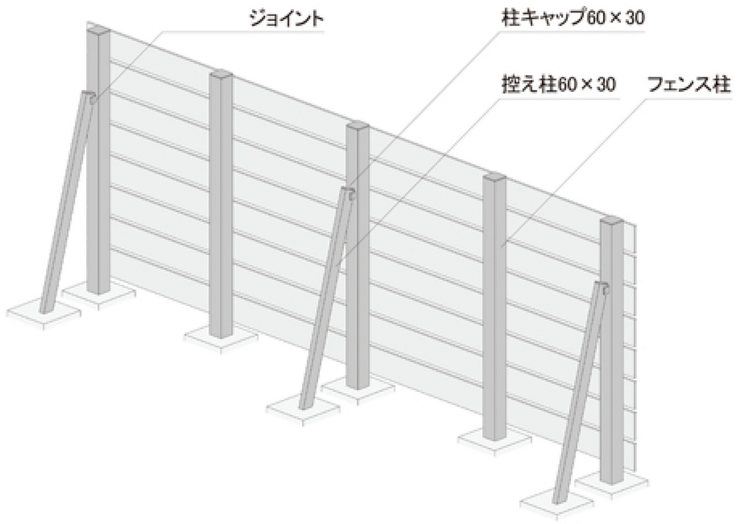


□パネルの中央(間柱)部



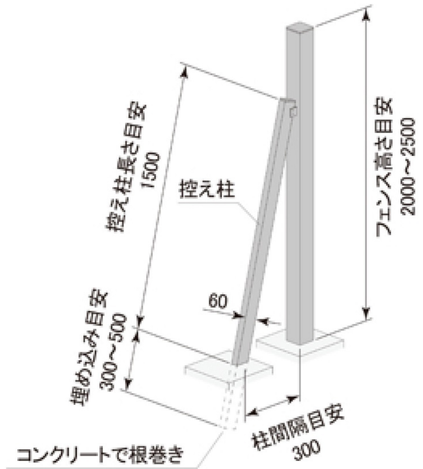
参考オプション（控え柱）

■各部名称

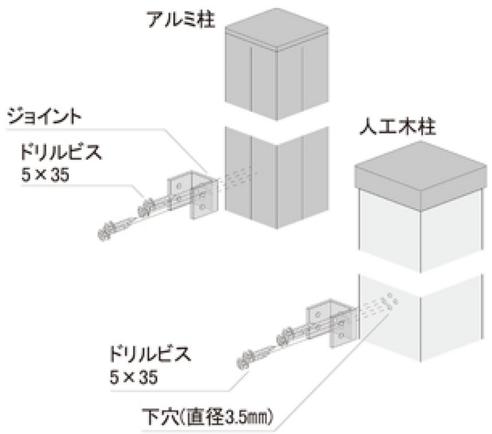


■取付け方法

①フェンス柱設置後、控え柱の長さや位置を確認する。



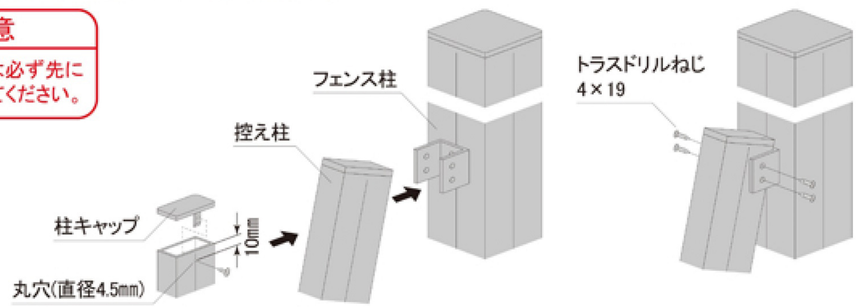
② ジョイントをフェンス柱に固定する。



③柱キャップを固定した控え柱をフェンス柱に固定する。

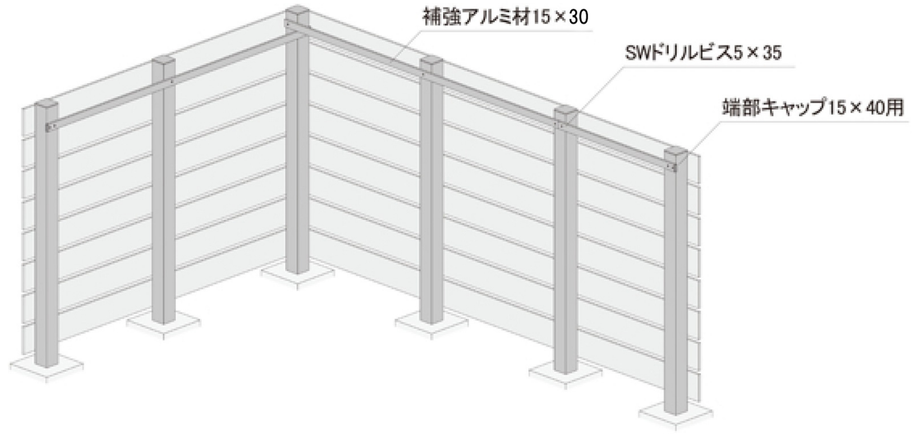
注 意

※柱キャップは必ず先にビス固定してください。



参考オプション（背面補強材）

■各部名称



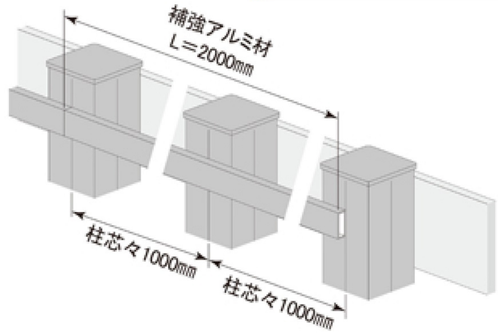
■取付け方法

①フェンス柱設置後に、補強アルミ材の位置を確認する。

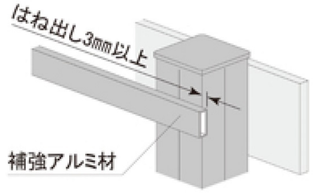
□センター部

注 意

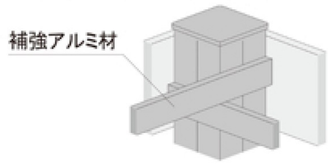
※寸法調整部は柱位置にあわせてカットしてください。



□端部キャップ部



□コーナー部（端部キャップがない場合）

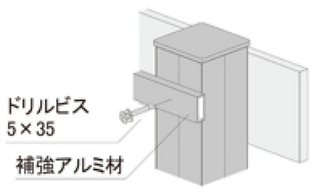


②補強アルミ材を、パネルの最上段位置にフェンス柱の裏側より固定する。

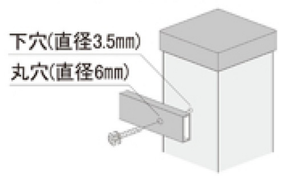
注 意

※強く締め過ぎると表面が陥没する恐れがあるのでご注意ください。

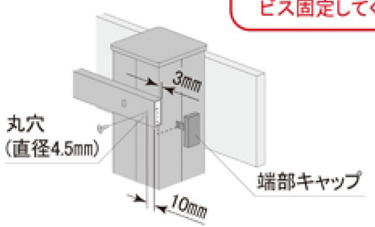
□アルミ柱の場合



□人工木柱の場合



③端部キャップを補強アルミ材に固定する。

注 意

※端部キャップは必ずビス固定してください。